

令和7年第8回富山県教育委員会議事日程

7月29日（火）午後1時30分

県庁4階大会議室

1 会議録の承認について

令和7年6月30日開催の令和7年第7回富山県教育委員会会議録の承認について

2 議決事項

議案第16号 令和8年度富山県立高等学校の入学者選抜日程決定の件

教育みらい室県立高校課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第17号 令和8年度富山県立特別支援学校高等部・幼稚部の入学者選抜日程決定の件

教育みらい室特別支援教育課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第18号 富山県立高等学校等の課程、学科等の設置等に関する規則一部改正の件

教育みらい室県立高校改革推進課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第19号 令和8年度富山県立学校募集定員等決定の件

教育みらい室県立高校改革推進課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第20号 博物館の登録に関する告示の件

生涯学習・文化財課長から説明し、原案のとおり可決した。

3 報告事項

(1) 令和7年度中学校第3学年及び義務教育学校第9学年生徒及び令和7年度県立高等学校全日制課程第3学年生徒の進路希望調査結果について

教育みらい室県立高校改革推進課長から説明した。

(2) 国の登録有形文化財（建造物）の登録について

生涯学習・文化財課長から説明した。

(3) 重要無形文化財の保持者（人間国宝）の追加認定について

生涯学習・文化財課長から説明した。

4 今後の教育委員会等の日程について

議案第16号

令和8年度富山県立高等学校の入学者選抜日程決定の件

このことについて、別紙のとおり決定するものとする。

令和7年7月29日提出

富山県教育委員会
教育長 廣 島 伸 一

令和8年度富山県立高等学校入学者選抜日程

項		目	期 間 等
全 日 制 の 課 程	推 薦	志 願 期 間	令和8年1月30日(金)午前9時～ 2月 3日(火)正午
		面 接 等 実 施 期 日	2月 9日(月)
		合 格 内 定 の 通 知	2月12日(木)午前10時
		合 格 者 の 発 表	3月13日(金)午後0時30分
	全 国 募 集	志 願 期 間	1月30日(金)午前9時～ 2月 3日(火)正午
		検 査 実 施 期 日	2月 9日(月)
		合 格 者 の 発 表	2月12日(木)午後0時30分
	一 般	志 願 期 間	2月19日(木)午前9時～ 2月24日(火)正午
		学 力 検 査 実 施 期 日	3月 5日(木)・3月 6日(金)
		追 検 査 実 施 期 日	3月10日(火)
		合 格 者 の 発 表	3月13日(金)午後0時30分
	第 2 次	志 願 期 間	3月16日(月)午前9時～ 3月17日(火)午後4時
		合 格 者 の 発 表	3月19日(木)午後0時30分
	定 時 制 の 課 程	単 位 制 前 期 第 1 次	志 願 期 間
検 査 実 施 期 日			3月 5日(木) 3月 6日(金) 面接予備日
合 格 者 の 発 表			3月13日(金)午後0時30分
単 位 制 以 外 第 1 次		志 願 期 間	3月16日(月)午前9時～ 3月17日(火)午後4時
		検 査 実 施 期 日	3月19日(木)
		合 格 者 の 発 表	3月25日(水)午後0時30分
※単位制前期第2次選抜を行う学校、学科及び募集定員等は3月13日(金)に発表する。			
単 位 制 以 外 第 2 次		志 願 期 間	3月25日(水)午後1時～ 3月26日(木)午後4時
		※第2次選抜を行う学科及び募集定員等は3月25日(水)に実施校において発表する。	
通 信 制 の 課 程		第 1 次	志 願 期 間
	検 査 実 施 期 日		3月19日(木)
	合 格 者 の 発 表		3月25日(水)午後0時30分
	第 2 次	志 願 期 間	3月25日(水)午後1時～ 3月26日(木)午後4時
		※面接等の実施は、雄峰高等学校長が定める日時及び場所において行う。	

(注記) 定時制の課程の単位制高等学校は、第2次選抜後、再度選抜を行うことがある。
その場合、単位制以外の第2次選抜に準ずる。

項		目	期 間 等
定 時 制 の 課 程	単 位 制 後 期	志 願 期 間	令和8年9月 1日(火)午前9時～ 9月 3日(木)正午
		検 査 実 施 期 日	9月10日(木)
		合 格 者 の 発 表	9月14日(月)午後0時30分

議案第 17 号

令和 8 年度富山県立特別支援学校高等部・幼稚部の
入学者選抜日程決定の件

このことについて、別紙のとおり決定するものとする。

令和 7 年 7 月 29 日提出

富山県教育委員会
教育長 廣 島 伸 一

[別紙]

令和8年度富山県立特別支援学校高等部入学者選抜日程

項 目		期 間 等	
A 日 程	第1次	志 願 期 間	令和8年1月28日(水)午前9時～1月30日(金)正午
		入学検査実施期日	2月 7日(土)
		追検査実施期日	2月12日(木)
	合格者の発表	2月16日(月)午後0時30分	
	第2次	志 願 期 間	2月19日(木)午前9時～2月24日(火)正午
		入学検査実施期日	3月 5日(木)
合格者の発表		3月13日(金)午後0時30分	
B 日 程	第1次	志 願 期 間	令和8年2月19日(木)午前9時～2月24日(火)正午
		入学検査実施期日	3月 5日(木)
		合格者の発表	3月13日(金)午後0時30分
	第2次	志 願 期 間	3月16日(月)午前9時～3月17日(火)午後4時
		入学検査実施期日	3月19日(木)
		合格者の発表	3月25日(水)午後0時30分

※1 A日程 … 富山高等支援学校生産・サービス科、高岡高等支援学校生産・サービス科、富山聴覚総合支援学校福祉・サービス科、高岡聴覚総合支援学校福祉・サービス科、富山総合支援学校産業工芸科及び生活文化科（知的障害）

B日程 … A日程該当以外の学校、学科又は障害種別

※2 A日程の第2次選抜を志願できる者は、A日程の第1次選抜の不合格者とする。

令和8年度富山県立特別支援学校幼稚部入学者選抜日程

項 目		期 間 等
第1次	志 願 期 間	令和8年2月19日(木)午前9時～2月24日(火)正午
	入学検査実施期日	3月 5日(木)
	合格者の発表	3月13日(金)午後0時30分
第2次	志 願 期 間	3月16日(月)午前9時～3月17日(火)午後4時
	入学検査実施期日	3月19日(木)
	合格者の発表	3月25日(水)午後0時30分

富山県立高等学校等の課程、学科等の設置等に関する規則の一部を改正する規則案要綱

教育みらい室県立高校改革推進課

項 目	説 明								
1 改正の趣旨、必要性等	富山県立魚津工業高等学校の全日制課程（以下「魚津工業高等学校」という。）について、令和8年度入学生から一括募集の導入と併せて、入学後に工業に関する幅広い知識を学んだ上で、1年次後半から生徒の興味・関心のある学科・コースを選択できるようにする新学科を開設することに伴い、所要の改正を行うもの								
2 規則案の内容	<p>1 改正内容</p> <p>魚津工業高等学校の3学科を廃止し、機械創造科、電気情報科及びIT・環境化学科を開設（別表第1関係）</p> <table border="1" data-bbox="488 772 987 936"> <thead> <tr> <th>旧学科名</th> <th>新学科名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械</td> <td>機械創造</td> </tr> <tr> <td>電気</td> <td>電気情報</td> </tr> <tr> <td>情報環境</td> <td>I T ・ 環境化学</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 施行期日</p> <p>(1) 施行期日 令和8年4月1日</p> <p>(2) 経過措置 魚津工業高等学校の機械科、電気科及び情報環境科については、改正後の別表第1の規定にかかわらず、令和8年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。</p> <p>3 他の例規との関連 特になし</p> <p>4 審議、調整、予算化等の状況 令和7年4月30日 教育委員会協議済</p>	旧学科名	新学科名	機械	機械創造	電気	電気情報	情報環境	I T ・ 環境化学
旧学科名	新学科名								
機械	機械創造								
電気	電気情報								
情報環境	I T ・ 環境化学								

議案第18号

富山県立高等学校等の課程、学科等の設置等に関する規則一部改正の件
富山県立高等学校等の課程、学科等の設置等に関する規則の一部を次のように改正する。

令和7年7月29日 提 出

富山県教育委員会

教 育 長 廣 島 伸 一

富山県立高等学校等の課程、学科等の設置等に関する規則の一部を改正する規則

富山県立高等学校等の課程、学科等の設置等に関する規則（昭和39年富山県教育委員会規則第2号）の一部を次のように改正する。

別表第1中

富山県立魚津工業高等学校	全 日 制	機 械		を
		電 気		
		情報環境		
富山県立魚津工業高等学校	全 日 制	機械創造		に改める。
		電気情報		
		I T ・ 環 境化学		

附 則

(施行期日)

1 この規則は、令和8年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則による改正前の別表第1に規定する富山県立高等学校の課程等及び学科のうち、次の表の左欄に掲げる高等学校の同表の中欄に掲げる課程等及び同表の右欄に掲げる学科は、この規則による改正後の別表第1の規定にかかわらず、令和8年3月31日に当該課程等及び学科に在学する者が当該課程等及び学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

富山県立魚津工業高等学校	全日制	機械
		電気
		情報環境

富山県立高等学校等の課程、学科等の設置等に関する規則案新旧対照表

現 行	改 正 案	備 考																																								
<p>第1条 略</p> <p>(富山県立高等学校の課程及び学科の設置)</p> <p>第2条 富山県立高等学校の課程及び学科等を別表第1のとおり設置する。</p> <p>第3条 略</p> <p>別表第1 (第2条関係)</p> <table border="1" data-bbox="168 689 967 986"> <thead> <tr> <th>高等学校名</th> <th>課程等</th> <th>学科</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">富山県立魚津工業高等学校</td> <td rowspan="3">全日制</td> <td>機械</td> <td></td> </tr> <tr> <td>電気</td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報環境</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>別表第2 略</p>	高等学校名	課程等	学科	備考					富山県立魚津工業高等学校	全日制	機械		電気		情報環境						<p>第1条 略</p> <p>(富山県立高等学校の課程及び学科の設置)</p> <p>第2条 同左</p> <p>第3条 略</p> <p>別表第1 (第2条関係)</p> <table border="1" data-bbox="994 689 1794 986"> <thead> <tr> <th>高等学校名</th> <th>課程等</th> <th>学科</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">富山県立魚津工業高等学校</td> <td rowspan="3">全日制</td> <td>機械創造</td> <td></td> </tr> <tr> <td>電気情報</td> <td></td> </tr> <tr> <td>I T・環境化学</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>別表第2 略</p>	高等学校名	課程等	学科	備考					富山県立魚津工業高等学校	全日制	機械創造		電気情報		I T・環境化学						<p>全日制課程の3学科を廃止し、機械創造科、電気情報科及びI T・環境化学科を開設</p>
高等学校名	課程等	学科	備考																																							
富山県立魚津工業高等学校	全日制	機械																																								
		電気																																								
		情報環境																																								
高等学校名	課程等	学科	備考																																							
富山県立魚津工業高等学校	全日制	機械創造																																								
		電気情報																																								
		I T・環境化学																																								

議案第 19 号

令和 8 年度富山県立学校募集定員等決定の件

令和 8 年度富山県立高等学校全日制課程、定時制課程、通信制課程及び専攻科並びに特別支援学校の募集定員等を別紙のとおり決定する。

令和 7 年 7 月 29 日 提出

富山県教育委員会

教育長 廣島 伸一

令和 8 年度 富山県立高等学校全日制課程第 1 学年募集定員

学校名	学科名	募集定員		備考
		学級	定員	
入 善	普 通	3	120	自然科学コース 観光ビジネスコース
	農 業	1	30	
桜 井	普 通	3	120	帰国生徒5
	土 木	1	40	
	生活環境	1	40	
魚 津	普 通	4	160	
魚津工業	機械創造	3	90	電気エネルギーコース 情報システムコース I Tコース 環境化学コース
	電気情報			
	I T・環境化学			
滑 川	普 通	2	80	
	薬 業	1	40	
	商 業	1	40	
	海 洋	1	40	
上 市	総 合	3	120	
雄 山	普 通	2	80	
	生活文化	1	40	
中央農業	生物生産	3	60	作物科学コース 動物科学コース 園芸福祉コース 環境緑化コース 生物工学コース 食品加工コース
	園芸デザイン			
	バイオ技術			
八 尾	普 通	3	120	福祉コース
富 山 西	普 通	3	120	
富 山	普 通	4	160	探究科学科
	理数科学	2	80	
	人文社会科学	2	80	
富山中中部	普 通	4	160	探究科学科
	理数科学	2	80	
	人文社会科学	2	80	
富山北部	普 通	3	120	体育コース約40
	くすり・バイオ	2	80	
	情報デザイン	1	40	
富山工業	機械工学	2	80	
	電子機械工学	1	40	
	金属工学	1	40	
	電気工学	2	80	
	建築工学	1	40	
富山商業	流通ビジネス	2	80	
	ビジネスマネジメント	1	40	
	会計ビジネス	1	40	
	情報ビジネス	2	80	
	総合	4	160	
富山いずみ	看 護	1	40	
富 山 東	普 通	6	240	自然科学コース約40
富 山 南	普 通	5	200	国際コース
呉 羽	普 通	6	230	音楽コース約30

学校名	学科名	募集定員		備考
		学級	定員	
小 杉	総 合	4	160	
大 門	普 通	3	120	情報コース
新 湊	普 通	3	120	
	商 業	1	40	
高 岡	普 通	4	160	探究科学科
	理数科学	2	80	
	人文社会科学	2	80	
高岡工芸	機 械	1	40	土木工学コース 環境化学コース
	電子機械	1	40	
	電 気	1	40	
	建 築	1	40	
	土木環境	1	40	
	工 芸	1	30	
高岡商業	流通ビジネス	2	80	
	国際ビジネス	1	40	
	会計ビジネス	1	40	
	情報ビジネス	1	40	
伏 木	国際交流	2	80	中国語コース 韓国語コース ロシア語コース
高 岡 南	普 通	4	160	人文科学コース
福 岡	普 通	3	120	英語コース
氷 見	普 通	2	80	
	農業科学	1	40	
	海洋科学	1	40	
	ビジネス	1	40	
砺 波	普 通	4	160	
	機 械	2	60	
	電 気	1	30	
砺波工業	電 子	1	30	
	普 通	4	160	
	国 際	1	30	
南砺福野	農 業 環 境	1	30	
	福 祉	1	30	
	普 通	1	36	
南 砺 平	普 通	1	36	全国募集6
石 動	普 通	3	120	
	商 業	1	40	
合 計		153	5,926	
【備考欄について】				
1 「〇〇コース約△△」、桜井高校普通科の「帰国生徒5」及び南砺平高校普通科の「全国募集6」は、定員の内数である。				
2 コース名のみは、2年次に開設するものである。ただし、魚津工業高校の学科・コースについては、1年次後半に開設するものである。				

学科等区分別募集定員(大学区区分による)

区 分	普 通	探究科学	国 際	農 業	水 産	工 業	商 業	家 庭	看 護	福 祉	総 合	総 計
学 級 数	79	6	3	6	2	26	16	3	1	1	11	154
募集定員	3,146	240	110	140	60	960	640	120	40	30	440	5,926

- ※ 氷見高校の農業科学科と海洋科学科は、農業と水産のそれぞれに1学級として集計
- ※ 探究科学科は、理数科学科と人文社会科学科の2学科の総称
- ※ 普通科は、「全国募集6」を含めて集計

別紙2

令和8年度
富山県立高等学校定時制課程第1学年募集定員

学 校 名	学 科 名	募集定員	備 考
新川みどり野	普 通	約 120	} 単位制
	福祉教養	約 40	
富山工業	機 械	約 40	
	電 気	約 40	
	生産機械	約 40	
雄峰	普 通	約 200	} 単位制
	総合ビジネス	約 40	
	生活文化	約 40	
志貴野	普 通	約 80	} 単位制
	国際教養	約 40	
	総合ビジネス	約 80	
	生活文化	約 40	
小矢部園芸	園 芸	約 40	単位制
となみ野	普 通	約 80	} 単位制
	総合福祉	約 40	
合 計		約 960	

令和8年度
富山県立高等学校通信制課程第1学年募集定員

学 校 名	学 科 名	募集定員	備 考
雄 峰	普 通	} 約 300	} 単位制
	衛生看護		
合 計		約 300	

令和8年度
富山県立高等学校専攻科第1学年募集定員

学 校 名	学 科 名 コース・課程名	募集定員	備 考
中央農業	農 業 ・担い手育成コース	約 10	
	・庭園コース	約 10	
富山いずみ	看 護	40	富山いずみ高校 看護科卒業者を対象とする。
雄 峰	生活科学 ・調理師養成課程	60	
小矢部園芸	園 芸	約 40	
合 計		約 160	

大学科別内訳	普 通	約 480
	国 際	約 40
	農 業	約 40
	工 業	約 120
	商 業	約 120
	家 庭	約 160

別紙3

令和8年度富山県立特別支援学校高等部及び高等部専攻科第1学年募集人員(定員)

学 校 名	学 科 等	障害種別	修業年限	募集人員(定員)	
富山視覚総合支援学校	普通科	視覚障害	3	約10	
		病弱	3	8	
	保健医療科 専攻科	視覚障害	3	約10	
			3	約10	
富山聴覚総合支援学校	産業工芸科	聴覚障害	3	約10	
	生活情報科				
	機 械 科				
	福祉・サービス科	知的障害	3	8	
	専攻科	産業工芸科	聴覚障害	2	約10
		生活情報科			
機 械 科					
高岡聴覚総合支援学校	機 械 科	聴覚障害	3	約10	
	生活情報科				
	福祉・サービス科	知的障害	3	8	
にいかわ総合支援学校	産業技術科	知的障害 肢体不自由	3	約20	
	生活文化科			若干名	
	訪問教育				
しらとり支援学校	産業技術科	知的障害	3	約30	
	生活文化科				
富山高等支援学校	生産・サービス科	知的障害	3	24	
高岡支援学校	産 業 科	知的障害	3	約30	
	生活文化科			若干名	
	訪問教育				
高岡高等支援学校	生産・サービス科	知的障害	3	24	
となみ総合支援学校	産業技術科	知的障害 肢体不自由	3	約20	
	生活文化科			若干名	
	訪問教育				
富山総合支援学校	産業工芸科	知的障害	3	8	
	生活文化科				
	産業工芸科	肢体不自由	3	約10	
	生活文化科			若干名	
	訪問教育				
高志支援学校	普通科	肢体不自由	3	約10	
ふるさと支援学校	普通科	病弱	3	約10	
	訪問教育			若干名	
合 計				約280 +若干名	

令和8年度富山県立特別支援学校幼稚部入学者募集人員

学 校 名	障害種別	学 年	募集人員
富山視覚総合支援学校	視覚障害	3 歳 児	若干名
		4 歳 児	若干名
		5 歳 児	若干名
富山聴覚総合支援学校	聴覚障害	3 歳 児	若干名
		4 歳 児	若干名
		5 歳 児	若干名
高岡聴覚総合支援学校	聴覚障害	3 歳 児	若干名
		4 歳 児	若干名
		5 歳 児	若干名
合 計			若干名

令和8年度県立学校募集定員等の概要

I 高等学校 全日制課程

1 考慮すべき状況の変化

- (1) 公私比率の廃止 (2) 県立高校志願倍率の低下とばらつき (3) 今後の県立高校の方向性の決定
 (4) 中学校卒業予定者数の大幅な減少

	令和6年3月	令和7年3月	令和8年3月
中学校卒業予定者数(全県)	8,625	8,509	8,107
中学校卒業予定者数の前年度比	▲127	▲116	▲402

2 学級編制方針

- (1) 令和6年度及び7年度の学級編制で募集定員の減で対応した学科も含め、学級定員は、40人を標準とする。
 (2) 普通科系学科と職業系専門学科の割合は、これまでの状況に配慮する。
 (3) 生徒のニーズや学びの場の確保の観点等から、各県立高校の学科毎に学級数・募集定員を設定する。
 ① 「近年の中学校別志願状況」を基に、「各中学校の卒業予定者数」から各県立高校の学科毎に志願者数を推計し、学級数・募集定員を設定する。
 ② ①を原則としつつ、県立高校が担うべき「学びの場の確保」の観点から、職業系専門学科については、必要に応じて少人数学級とすることにより学級数を維持する。
 ③ 激変緩和の観点から、1学級を超える学級減は行わない。

3 募集定員の増減を行う高校・学科

	高校名	学科	R7募集定員		R8募集定員		増減	
			学級数	定員	学級数	定員	学級数	定員
1	入善	普通	4	140	3	120	▲1	▲20
2	魚津工業	機械・電気・情報環境	3	105	3	90	—	▲15
3	上市	総合	4	150	3	120	▲1	▲30
4	中央農業	生物生産・園芸デザイン・ハイ技術	3	73	3	60	—	▲13
5	八尾	普通	4	150	3	120	▲1	▲30
6	富山西	普通	4	140	3	120	▲1	▲20
7	富山いずみ	総合	4	150	4	160	—	+10
8	小杉	総合	4	150	4	160	—	+10
9	伏木	国際交流	3	90	2	80	▲1	▲10
10	南砺福野	普通	4	140	4	160	—	+20

4 令和8年度募集定員

34校 153学級 5,926人 (前年度に比べて5学級98人減)
 ※普職比率 63.7% (令和7年度 63.8%)

5 学科改編

魚津工業高校の学科改編を行い、入学時は「工業科」として一括募集し、1年次後半から「機械創造科」、「電気情報科」、「IT・環境化学科」に分かれることとする。

II 高等学校 定時制課程、通信制課程、専攻科

- [募集定員] (1) 定時制課程 6校 約960人 (令和7年度と同じ)
 (2) 通信制課程 1校 約300人 (令和7年度と同じ)
 (3) 専攻科 4校 約160人 (令和7年度と同じ)

III 特別支援学校 高等部及び高等部専攻科、幼稚部

- [募集人員] (1) 高等部 12校 約250人+若干名 (令和7年度と同じ)
 高等部専攻科 2校 約30人 (令和7年度と同じ)
 (2) 幼稚部 3校 若干名 (令和7年度と同じ)

議案第20号

博物館の登録に関する告示の件

博物館法第14条の規定により、富山県美術館を次のように登録したことを告示するものとする。

令和7年7月29日 提 出

富山県教育委員会

教 育 長 廣 島 伸 一

富山県教育委員会告示第 号

公立博物館の登録について

博物館法（昭和26年法律第 285号）第14条第 1 項の規定により、次の公立博物館を博物館登録原簿に登録した。

令和 7 年 月 日

富山県教育委員会

教 育 長 廣 島 伸 一

登録年月日及び 記号番号	設置者の 名称	博物館の名称	所在地
令和 7 年 7 月 4 日 美第12号	富山県	富山県美術館	富山市木場町 3 番 20 号

令和7年度中学校第3学年及び義務教育学校第9学年生徒の進路希望調査結果

—令和7年5月1日現在—

令和7年7月29日
県立高校改革推進課

令和8年3月に県内の国立(1校)・公立(72校1分校)・私立(1校)中学校及び義務教育学校(4校)を卒業する予定の生徒について、令和7年5月1日現在における進路希望状況を調査した結果は、次のとおりである。

1 卒業予定者数及び進路希望状況

- 卒業予定者は**8,107人**で、前年同期と比べ**402人減少**。
- 進学希望者の割合は**98.1%**で、前年同期と同ポイント。

- ・ 令和8年3月の卒業予定者は**8,107人**(男4,250人・女3,857人)で、前年同期と比べ**402人減少**(男57人減少・女345人減少)している。
- ・ 進学希望者は**7,953人**(男4,169人・女3,784人)で、前年同期と比べ**394人減少**(男49人減少・女345人減少)している。進学希望者の卒業予定者に対する割合は**98.1%**で、前年同期と同ポイントとなった。
- ・ 専修学校等希望者は**5人**(女5人)で、前年同期と比べ**1人増加**となった。
- ・ 就職希望者(進学希望者及び専修学校等希望者の内の就職希望者を含む)は**14人**(男7人・女7人)で、前年同期と比べ**7人減少**している。就職希望者の卒業予定者に対する割合は**0.2%**で、前年同期と同ポイントとなった。

<第1表> 進路希望状況

年度	実数(人)						割合(%)		
	卒業予定者 a	進学希望者 b	専修学校等希望者 c	就職希望者 d	未定者 e	(再掲)bcの内就職希望者 f	進学希望率 b/a	専修学校等希望率 c/a	就職希望率 (d+f)/a
R3	8,910	8,738	5	11	156	2	98.1	0.1	0.1
R4	8,752	8,590	8	14	140	1	98.1	0.1	0.2
R5	8,625	8,463	8	12	142	1	98.1	0.1	0.2
R6	8,509	8,347	4	20	138	1	98.1	0.0	0.2
R7	8,107	7,953	5	14	135	0	98.1	0.1	0.2

2 進学先別希望状況

- 県内県立高等学校全日制課程を希望する者の割合は**80.0%**で、前年同期と比べ**0.8ポイント低下**。

- ・ 県内県立高等学校全日制課程を希望する者は**6,483人**(男3,357人・女3,126人)で、前年同期と比べ**389人減少**している。卒業予定者に対する割合は**80.0%**で、前年同期と比べ**0.8ポイント低下**している。

<第2表> 進学先別希望状況

単位：上段は% 下段は人

年度	区分	卒業予定者数	進学希望者数	全日制課程		定時制課程	通信制課程	高等専門学校	特別支援学校
				全体	内 県内 県立高校				
R3	割合	100.0	98.1	90.6	83.6	2.4	0.6	3.9	0.5
	実数	8,910	8,738	8,072	7,446	217	54	347	48
R4	割合	100.0	98.1	91.0	83.3	2.3	0.8	3.2	0.7
	実数	8,752	8,590	7,966	7,294	204	72	284	64
R5	割合	100.0	98.1	90.4	82.1	2.6	1.1	3.5	0.6
	実数	8,625	8,463	7,793	7,083	223	96	302	49
R6	割合	100.0	98.1	89.8	80.8	3.0	1.5	3.1	0.7
	実数	8,509	8,347	7,643	6,872	258	124	264	58
R7	割合	100.0	98.1	90.5	80.0	2.1	1.4	3.1	0.9
	実数	8,107	7,953	7,340	6,483	171	112	255	75

(注) 上段は各進学先別希望者数の卒業予定者数に対する割合である。なお、端数処理のため、各割合を合計しても100.0%にならない場合がある。

3 全日制高校への学科等区分別希望状況

○ 県内県立高等学校全日制課程の普通系学科（普通科、探究科学科、国際科）希望者の割合は66.5%で、前年同期と同ポイント。職業系専門学科希望者の割合は25.8%で0.1ポイント上昇。総合学科は7.7%で0.2ポイント低下。

- 県内県立高等学校全日制課程への進学希望者の学科等区分別希望状況は、普通科が61.3%と最も多く、次いで工業科12.0%、商業科8.6%、総合学科7.7%、となっている。なお、前年同期と比べ希望者の割合が上昇している学科は、探究科学科(0.3ポイント)、水産科(0.1ポイント)、商業科(0.5ポイント)、看護科(0.1ポイント)である。

<第3表> 全日制高校への学科等区分別希望状況

単位：上段は% 下段は人

年度	区分	合計	普通系学科				職業系専門学科								総合 学科	その 他	
			普通 科	探究 科学 科	国際 科	計	農 業 科	水 産 科	工 業 科	商 業 科	家 庭 科	看 護 科	福 祉 科	計			
※ 全 体	R6	割合	100.0	64.4	3.7	0.9	69.0	1.3	0.6	11.5	7.3	1.9	0.6	0.4	23.7	7.2	0.2
		人数	7,643	4,920	284	66	5,270	100	49	876	560	145	45	34	1,809	547	17
	R7	割合	100.0	64.9	3.9	0.8	69.6	1.3	0.7	11.1	7.6	1.4	0.7	0.4	23.3	6.9	0.2
		人数	7,340	4,766	288	57	5,111	98	54	815	556	106	50	29	1,708	507	14
内 県 内 県 立 高 校	R6	割合	100.0	61.5	4.1	0.9	66.5	1.5	0.7	12.4	8.1	1.8	0.7	0.5	25.7	7.9	
		人数	6,872	4,226	281	60	4,567	100	49	852	560	125	45	32	1,763	542	
	R7	割合	100.0	61.3	4.4	0.7	66.5	1.5	0.8	12.0	8.6	1.6	0.8	0.4	25.8	7.7	
		人数	6,483	3,977	288	45	4,310	98	54	781	555	105	50	29	1,672	501	

※ 私立高校・県外高校を含む。

(注) 上段は各学科等区分別希望者数の合計に対する割合である。なお、端数処理のため、各割合を合計しても100.0%にならない場合がある。

令和7年度県立高等学校全日制課程第3学年生徒の進路希望調査結果

— 令和7年5月1日現在 —

令和7年7月29日
県立高校改革推進課

令和8年3月に県立高等学校全日制課程(33校1分校)を卒業する予定の生徒について、令和7年5月1日現在における進路希望状況を調査した結果は、次のとおりである。

1 卒業予定者数及び進路希望状況

- 卒業予定者は、5,681人で、前年同期と比べ266人減少。
- 進学希望者の割合は71.6%で、前年同期と比べ0.8ポイント上昇。

- ・ 令和8年3月の卒業予定者は5,681人(男2,817人・女2,864人)で、前年同期と比べ266人減少(男183人減少、女83人減少)している。
- ・ 進学希望者は4,067人(男1,930人・女2,137人)で、前年同期と比べ145人減少している。進学希望者の卒業予定者に対する割合は71.6%で、前年同期と比べ0.8ポイント上昇している。
- ・ 専修学校等希望者は699人(男225人・女474人)で、前年同期と比べ45人減少している。専修学校等希望者の卒業予定者に対する割合は12.3%で、前年同期と比べ0.2ポイント低下している。
- ・ 就職希望者(進学希望者及び専修学校等希望者の内の就職希望者を含む)は893人(男650人・女243人)で、前年同期と比べ69人減少している。就職希望者の卒業予定者に対する割合は15.7%で、前年同期と比べ0.5ポイント低下している。

<第1表> 進路希望状況

年度	実数(人)						割合(%)		
	卒業予定者 a	進学希望者 b	専修学校等希望者 c	就職希望者 d	未定者 e	(再掲)bcの内就職希望者 f	進学希望率 b/a	専修学校等希望率 c/a	就職希望率 (d+f)/a
R3	6,530	4,427	932	1,134	37	0	67.8	14.3	17.4
R4	6,373	4,381	837	1,115	40	0	68.7	13.1	17.5
R5	6,113	4,257	774	1,038	44	0	69.6	12.7	17.0
R6	5,947	4,212	744	962	29	0	70.8	12.5	16.2
R7	5,681	4,067	699	892	23	1	71.6	12.3	15.7

2 進学先別希望状況

- 卒業予定者に対する大学進学希望者の割合は66.1%で、前年同期と比べ0.1ポイント上昇。

- ・ 卒業予定者に対する大学進学希望者の割合は66.1%(対前年同期比0.1ポイント上昇)、短大進学希望者の割合は4.0%(対前年同期比0.1ポイント低下)となっている。
- ・ 進学希望者に対する大学進学希望者の割合は92.3%(対前年同期比0.8ポイント低下)、短大進学希望者の割合は5.6%(対前年同期比0.2ポイント低下)となっている。

<第2表> 進学先別希望状況

年度	実数 (人)					卒業予定者に対する割合 (%)				進学希望者に対する割合 (%)			
	卒業 予定者	進学 希望者	内 訳			進学 希望者	内 訳			進学 希望者	内 訳		
			大学	短大	その他		大学	短大	その他		大学	短大	その他
R3	6,530	4,427	4,036	346	45	67.8	61.8	5.3	0.7	100.0	91.2	7.8	1.0
R4	6,373	4,381	4,044	298	39	68.7	63.5	4.7	0.6	100.0	92.3	6.8	0.9
R5	6,113	4,257	3,910	291	56	69.6	64.0	4.8	0.9	100.0	91.8	6.8	1.3
R6	5,947	4,212	3,923	243	46	70.8	66.0	4.1	0.8	100.0	93.1	5.8	1.1
R7	5,681	4,067	3,755	228	84	71.6	66.1	4.0	1.5	100.0	92.3	5.6	2.1

(注) ・ 「その他」は、大学・短大の別科及び通信教育部、高等学校専攻科である。

・ 卒業予定者数及び進学希望者数に対する割合は、端数処理のため、各割合を合計しても100.0%にならない場合がある。

3 男女別進路希望状況

進路希望状況を男女別にみると下図のようになる。()は前年度の値。

〈全体〉卒業予定者 5,681人 (5,947人)

進学 ^{*1}	専修学校等 ^{*2}	就職 ^{*3}
4,067人 71.6% (4,212人) (70.8%)	699人 (744人)	892人 (962人)
大学	12.3% (12.5%)	15.7% (16.2%)
3,755人 66.1% (3,923人) (66.0%)		
短大228人(243人) 4.0%(4.1%)		未定23人(29人)
その他84人(46人) 1.5%(0.8%)		0.4%(0.5%)

〈男子〉卒業予定者 2,817人 (3,000人)

進学 ^{*1}	専修学校等 ^{*2}	就職 ^{*3}
1,930人 68.5% (2,051人) (68.4%)	225人 (255人)	649人 (676人)
大学	8.0% (8.5%)	23.0% (22.5%)
1,873人 66.5% (1,996人) (66.5%)		
短大40人(49人) 1.4%(1.6%)		未定13人(18人)
その他17人(6人) 0.6%(0.2%)		0.5%(0.6%)

〈女子〉卒業予定者 2,864人 (2,947人)

進学 ^{*1}	専修学校等 ^{*2}	就職 ^{*3}
2,137人 74.6% (2,161人) (73.3%)	474人 (489人)	243人 (286人)
大学	16.6% (16.6%)	8.5% (9.7%)
1,882人 65.7% (1,927人) (65.4%)	短大 188人 6.6% (194人) (6.6%)	
その他67人(40人) 2.3%(1.4%)		未定10人(11人)
		0.3%(0.4%)

(注) ・ 卒業予定者数に対する割合は、端数処理のため、各割合を合計しても100.0%にならない場合がある。

・ *1, *2 就職進学者を含む。

・ *3 就職進学者を含まない。

国の登録有形文化財（建造物）の登録について（報告）

下記の建造物の保存・活用について、文化庁と協議を進めてまいりましたが、このたび7月18日（金）開催の文化審議会において登録の答申がなされましたので、ご報告します。

なお、今回の登録で県内の国の登録有形文化財（建造物）の総数は80か所165件（うち橋梁は3件）となり、黒部市では初の登録となります。

（県内の主な国の登録有形文化財（建造物）…富山県庁舎本館、笹津橋、桜橋等）

1 登録の概要（1か所1件）

きゅうやまびこばし
旧山彦橋（黒部市所有）

- ① 建設年代 大正13年（平成13年改修）
- ② 所在地 黒部市宇奈月温泉～宇奈月町音澤
- ③ 特徴等

- 黒部峡谷に架かる橋長約92mの鋼製スパン
ドレルブレストアーチ橋（※）。同形式の橋梁としては日本最古となる。
- 急峻な黒部峡谷での電源開発のための建築資材・作業員等を輸送する専用軌道として建設された、本県の電源開発の歴史を物語るシンボルである。
- 宇奈月ダム建設に伴う路線変更によって、昭和61年（1986）に鉄道橋としての役目を終えたあと、人道橋に改修され、現在は遊歩道として利用されているほか、マラソンコースや音楽イベントの会場としても活用されている。



旧山彦橋（上流から）



旧山彦橋近影（下流から）

（※）アーチと桁の間（スパンドレル）にブレスト（斜材）を配し、トラス（三角形を基本とする構造）で構成される橋梁。長スパンを必要とする橋梁で採用される。急流によって橋脚が流される危険性が無く、かつ峡谷美を損ねない構造である。戦前までの同形式の橋梁は東日本に多く残り、本県が4件で最多（『日本の近代土木遺産』による。千垣橋梁（富山市～立山町）、旧山彦橋・跡曳橋・鐘釣橋（黒部市）の4件）。

2 今後のスケジュール

令和7年11月頃官報告示予定（正式に国の登録有形文化財（建造物）として登録）

重要無形文化財の保持者（人間国宝）の追加認定について（報告）

このたび、7月18日（金）開催の文化審議会において、高岡市在住の林 曉^{はやし さとる}氏が重要無形文化財「髹漆^{きゅうしつ}」（※）技術の保持者（いわゆる人間国宝）として追加認定する旨の答申がなされましたので、ご報告します。

（※）重要無形文化財「髹漆」について

髹漆^{きゅうしつ}は、漆を塗ることを主とする漆芸^{しつげい}の基本となる技法。素地の造形、下地を経て、塗りや仕上げに至る広い工程には、多種の技術が必要で、漆芸の中で最も古い技法である。現在は、立体的な造形と漆特有の塗肌や光沢を活かした制作が行われており、芸術上価値が高く、工芸史上重要な地位を占めている技法である。

1 認定の意義

- (1) 本県では金森榮一^{かなもりえいいち}氏（雅号 金森映井智^{かなもりえい い ち}、高岡市、彫金技術、H1 認定、H13 物故）、大澤幸勝^{おおざわゆきまさ}氏（雅号 大澤光民^{おおざわこうみん}、高岡市、鍍金技術、H17 認定、R5 物故）に次ぎ3人目の人間国宝の誕生である。
- (2) 本県における伝統工芸を継承する方々の励みに繋がることが期待される。

2 林曉氏について（満71歳）

- (1) 現 職 富山大学名誉教授
- (2) 所属等 公益社団法人日本工芸会正会員
- (3) 略 歴 昭和29年 東京に生まれる
昭和55年 東京芸術大学大学院修士課程修了
昭和57年 第29回日本伝統工芸展初入選
平成7年 高岡短期大学産業工芸学科（現・富山大学芸術文化学部）助教授
平成15年 高岡短期大学産業造形学科（現・富山大学芸術文化学部）教授
平成22年 紫綬褒章
令和5年 富山大学名誉教授

3 認定の理由

日本の伝統的な髹漆の各工程に対する深い理解と技術の高さを有し、細部まで研ぎ澄まされた器形と精緻で均一な塗りは日本伝統工芸展等で高く評価されている。また、長年富山大学等において漆芸教育に携わり、後進の指導・育成に尽力している。

4 今後のスケジュール

官報告示（令和7年秋頃）をもって、正式に重要無形文化財の保持者（人間国宝）に認定予定



林曉氏（文化庁提供）

参 考

今後の教育委員会等の日程について

- 令和7年8月19日(火) 14:30 予定
教育委員会 (県民会館 302 号室)